

医療従事者の負担軽減及び処遇改善に資する計画

2026年4月策定

1 勤務医（医師）の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

① 医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目	これまでの取り組み	2026年度目標・計画	目標達成年次
外来初診時選定療養費の実施	患者相談サポートセンター看護師が受診相談を受けて適切な受診先の相談を受ける体制を整えた。	取り組み継続	継続取組
KMNの普及 作業分配	連携室にて、KMNの送受信対応 人員不足もあり普及不十分	KMNの普及のため、送受信のマニュアル整備, 皆が使える医療情報システムを目指す	継続取組
初診時の問診の実施	受付で問診票配布し記入を依頼する。各科で看護師が確認し、不足分を聞き取り追加記載を行う。診察前に医師補助者または看護師によりカルテへ問診入力を行う。	取り組み継続	継続取組
静脈採血等の実施	中央採血室で、担当の看護師と臨床検査技師、医師により採血業務を行う。医師指示がある場合は処置室を利用し行う。	取り組み継続	継続取組
入院の説明の実施	患者相談サポートセンターに看護師を配置し、予定入院の患者・家族に対し、入院中に行われる治療計画の説明、入院生活のオリエンテーション、入院前の服薬状況の確認等を実施する体制を構築	取り組み継続	継続取組
検査手順の説明実施	医師または看護師がパンフレットなどを用い説明を行う。説明後、不安の有無や理解度を確認する。理解が不十分と判断される場合は家族を交え説明し、検査前日までに看護師から電話連絡にて再確認を行っている。	取り組み継続	継続取組
薬の説明や服薬の指導	化学療法など特定の薬剤の使用に関する説明や指導を行っている	取り組み継続	継続取組
PBPM（Protocol Based Pharmacotherapy management）に基づく薬剤師の処方代行の実施	化学療法のレジメンの管理登録、必要な検査依頼 特定薬剤治療管理における計画書の作成の代行入力	取り組み継続	継続取組
院内処方箋における疑義照会適正化プロトコル（処方支援業務）	医師の処方内容を確認し薬の選択、用量の変更を提案し必要時処方変更を行っている。	引き続きこれまでの取り組みを継続しつつ、AIなどICTの導入を検討する。	継続取組
検査技師によるエコー検査の実施	臨床検査技師が主体となり超音波検査が実施可能な体制を構築	専門性を有する超音波検査士の育成および計画的な増員を推進し、検査精度の向上と均てん化を図ることで、質の高い超音波検査の提供体制を強化する。	継続取組
診療放射線技師によるエコー検査の実施	診療放射線技師が臨床検査技師と共に超音波検査が実施可能な体制を構築	腹部超音波を実施可能な診療放射線技師を1名育成する。確認してもらえる技師がいれば、単独施行できるよう目指す。	継続取組
医師事務作業補助者の配置	医師事務作業補助者を配置・育成し、医師の指示のもと診断書などの文書作成補助、診療記録への代行入力及び医療の質の向上に資する事務作業、並びに行政上の事務作業等の業務を行い、医師の業務負担軽減を図る。15：1の配置を継続し、さらなる業務拡大を目指す。	取り組み継続	継続取組

チーム医療の促進	看護師の知識と技術を向上させることにより、医師との業務分担を更に推進すると共に、栄養士や薬剤師・検査技師・放射線技師、臨床工学技士等の医療技術部門においてもその活動範囲を拡大することにより、常勤医の負担軽減を図る。 社会的問題の解決については、MSWが対応できる体制をとっている。 虐待対応については、医師単独で対応せず、病院の委員会に対応し、主治医の負担軽減を図っている。	取り組み継続	継続取組
情報通信機器を活用した業務効率化・省力化の推進	新規機器の導入は行わず、既存環境の活用（設定変更）や自作ツールによる効率化を行った。	AI電話導入、インカム導入、患者向け動画作成をすすめる。	継続取組

② 医師の勤務体制等にかかる取組

項目	これまでの取り組み	2026年度目標・計画	目標達成年次
勤務計画、連続当直を行わない勤務体制の実施	連続当直を行わない勤務体制の取組を実施中	達成済みであり、引き続き取組む	継続取組
当直翌日の業務内容に対する配慮	当直明けは勤務しないこととするよう所属長に協力を要請中	達成済みであり、引き続き取組む	継続取組
非常勤医師の活用	適宜雇用する	達成済みであり、引き続き取組む	継続取組
夜間当直業務の軽減	医局へ対し、合理的なシフト作成を依頼中	達成済みであり、引き続き取組む	継続取組
短時間勤務の導入	項目に基づく取組を実施中	達成済みであり、引き続き取組む	継続取組

2 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

① 看護師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目	これまでの取り組み	2026年度目標・計画	目標達成年次
入院患者の持参薬確認業務等の分担	入院患者の持参薬は薬剤師が鑑別し、医師へ報告し、院内処方へ切り替えの支援を行っている。	継続取り組み	継続取組
採血業務の分担	看護師と臨床検査技師、医師により実施。看護師は各科の診療補助の状況により採血業務を行っている。	継続取り組み	継続取組
医療機器の管理分担	各病棟や部門管理であった機器を機器管理システム登録し中央管理とした。 医療機器の修理窓口を臨床工学科へ一本化し、未登録機器の洗い出しと登録を行いシステムの充実化を目指した。	機器管理システムを有効活用し、情報収集を積極的に行い医療機器の標準化新規・更新・購入機器策定、経費削減等に努める	継続取組
クレークの配置	各病棟クレーク1名の配置は施設基準上過剰配置となる。事務的処理は0.5でよいと、考えながら配置を行った。	一人のクレークが2部署を兼務できるような配置を考えていく。協力体制の構築。	継続取組
夜勤減免制度の導入	小学校始期に達するまでの子のある職員は深夜勤務及び時間外勤務を制限可能とする取組を行なっている	達成済みであり、引き続き取組む	継続取組
短時間勤務の導入	子育て中の看護師の負担軽減として、育児短時間勤務を導入。介護中でも柔軟な働き方を行えるように、短時間制度を導入	達成済みであり、引き続き取組む	継続取組
看護補助者の配置	委託職員の継続的配置を行うとともに、直接雇用の職員の確保に努める	達成済みであり、引き続き取組む	継続取組
6分間歩行テストの検査運用分担	6分間歩行テストは今まで看護師2名で対応していた。検査技師が1名入ることで、バイタルの記載と検査時間の確認を行い看護師の業務負担軽減に努めた。	安全な検査運用ができるよう看護師と連携をとりながら検査技師の育成に努める。	継続取組

人工関節手術前の貯血業務の分担	貯血業務は看護師のみで行っていたが、採血時の看護師介助、血液パックのシーリング、手書きラベルのシステム化、運搬業務を検査技師が行うことで、看護師の業務負担軽減に努めた。	安全な貯血管理を保つ為に検査技師の育成に努める。	継続取組
MRI問診票の取得業務の分担	放射線紹介患者の同意書取得（MRI単純造影、CT造影）を診療放射線技師が必ず行うようにする。	達成済みであり、引き続き取組む。	継続取組
RI検査における静脈路確保と薬剤投与および抜針を行う	RI検査時の静脈路確保と薬剤投与および抜針を看護師とのタスクシェアで行うよう取り決めを行った。	今年度の前半中に担当の看護師とOJT計画を行い、2026年度内に何名かの技師が担当できるように取り組む。	継続取組
CT、MRI造影検査時の造影剤注入装置を接続する行為と抜針を行う	CT、MRI造影時の自動注入器接続、造影後の抜針を看護師とのタスクシェアで行うよう取り決めを行った。	今年度前半で技師に周知し、2026年度中に担当の技師は必ずできるよう取り組む。	継続取組

② 看護師の勤務体制等にかかる取組

項目	これまでの取り組み	2026年度目標・計画	目標達成年次
11時間以上の勤務間隔の確保	2交代勤務への転換。管理師長の勤務翌日の出勤を遅出にしたり、2時間の代休にしてインターバル時間を確保する。	管理当直業務翌日の勤務は、必ず2時間代休を取るか遅出業務を入れてインターバル時間を確保する。	継続取組
夜勤の連続回数が2連続（2回）まで	2交代勤務への転換。	目標達成しているが継続して進めていく	継続取組
暦日の休日の確保	勤務希望を調整し不平等感がないようにする。	勤務部署により均一ではないため、勤務希望による調整はもちろんだが、病棟以外の部署からのリリーフ体制も視野に入れて計画する	継続取組
早出・遅出等の柔軟な勤務体制の工夫	いくつかの勤務パターンを作成し、業務に見合った時間調整をした。	遅出・早出の調整もちろんだが、リリーフ体制を強化し、時間内に業務が終われるような仕組みを作る	継続取組
看護補助業務のうち50%以上が療養生活上の世話	看護補助者へのタスクシフトを行なう	引き続き委託職員の継続的配置を行う、介護福祉士の募集を継続	継続取組
看護補助者の夜間配置	委託職員の継続的配置ほか、介護福祉士、直接採用の看護補助者の夜勤人員を確保	引き続き看護師以外の当該職員の確保に務める	継続取組
みなしを除いた看護補助者比率50%以上	処遇改善を図り、離職防止に努める	引き続き看護補助者の確保に務める	継続取組
ICT、AI、IoT等の活用による業務負担軽減	DX推進委員会の活動内容を会計・医療情報課で行うことになった。ICT等の活用を検討するためアンケート調査、デモの実施を行った。情報収集、検討は行ったが、費用対効果や運用面の課題もあり導入は見送った。	AI電話導入、インカム導入、患者向け動画作成をすすめる。	検討中

3 その他

項目	これまでの取り組み	2026年度目標・計画	目標達成年次
職員のメンタルヘルスを支援する体制を整える	相談事業について周知し、予約に空きがある場合は随時アナウンスを行い、カウンセリング実施率の向上を図る	引き続き取り組み、カウンセリングの実施を推奨	継続取組
ハラスメントのない職場環境をつくる	ハラスメントに関する情報を発信、事案が起こった場合は速やかに対応する	規程や業務フローの見直しをすすめ、さらなる職場環境の向上を図る	継続取組
管理職等の職員の意識改革	管理職への教育を推進する	階層別・職種別の研修を計画的に行う	継続取組